

平成 28 年度第 2 回福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議録

(司会)

失礼いたします。定刻になりましたので、ただいまから福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議を開催させていただきます。

私は企画課長の大橋と申します。本日の進行役を務めさせていただきますので、よろしくお祈いします。

今回の有識者会議につきましては、年度末の大変お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。それでは早速ですが、お手元に配布させていただいております会議次第によりまして進めさせていただきます。それではよろしくお祈い致します。

まず、開会にあたりまして、伊東副市長からごあいさつを申し上げます。

(伊東副市長)

皆さん、あらためまして、こんにちは。27 年 10 月に、この総合戦略をまとめていただいて、そういう意味でお懐かしいお顔に、また出会うことができることになって、心から嬉しく思っております。27 年につくっていただきまして、その後、28 年・今年度が本格的に動かす年でございます。27 年にまとめていただいた 4 分類ほどの事業の中で 18 ほどが最重点事業ということで、皆さんにいろいろとご議論をいただきまして、闊歩してきたということでございます。ご承知の通り、昨年 6 月、市長選がございまして、松山前市長から大橋市長にお変わりになった、ということです。その後、いろいろと市長さんからもお話を聞くんですけど、基本的には私ども 27 年 10 月につくった総合戦略を、多少の濃淡といいですか、位置づけとか、力の入れ方の、少し差があるかもしれませんが、基本的には我々がつくった総合戦略を引き続きやっいてこう、と。こういうことで、現在進めてきておるわけです。また、後で担当のほうから、その後のとりまとめたいただいた事業の状況も説明させていただくと思っておりますけども、例えば、今日は中尾先生もいらっしゃいますし、森本先生もいらっしゃいますけども、福知山公立大学、それから工芸繊維大学が 30 年から開学します。これを知の拠点という名前に変えまして、公立大学だけじゃなくて工芸繊維大学と 2 つ、文系・理系の知の拠点をしっかり進めていこうということで、今まさに取り組み始めたところでございます。また来年度になりますと、知の拠点の整備基本計画、じつは今までは基本構想というのがあったんですけど、これを整備構想という名前に変えまして、よりランクアップして、この事業を進めていこうと、こういうことで取り組んでおります。ただ、中小企業サポートセンターを、これも立ち上げようということもあったんですけど、少し新しい市長さんの思い入れもございまして、産業支援センターという新たな、よろず相談機能を含めまして、そういう産業支援センターというのを立ち上げていこうということで、これも来年度から動かすということになっています。それから観光に

つきましても、いろいろご議論いただきますけど、観光地域づくりセンターなるものを立ち上げて、いわゆる「地域プレイヤー」の方々ですね。今日ご参加いただいております、そういう方々のやってるプロジェクトをより磨きをかけて、より高いものにして、たくさんのお客さんに来てもらう。そういうことも、センターを通じてやっていこうということで動かし始めております。それから、いろいろありますけども、今日岡本さんみえてますけども、当時も伝統産業をしっかりやっていこうという中で、例えば、夜久野ですと漆を焦点あてて進めていこうというようなことで。なんといいましても、かなりの部分、皆さんからご提案いただいたやつを、より進展・展開させていこうということで動いておりますので、よろしくお願ひします。こういう中でも、皆さんから「いや、ちょっとこれはもう少しこうしたほうがいいんじゃないか」とか「ちょっとそれは、当初の思いとは違うんで、こうしたらどうですか」というご意見があれば、どんどん積極的にいただきまして、我々としての今後の事業を進める 1 つの指標にしていきたいと思ひますので、どうかよろしくお願ひします。本日は誠にご苦勞様です。よろしくお願ひします。

(司会)

続きまして、次第に従ひまして進めさせていただきます。次第 3 の「新委員紹介・委嘱状交付」でございます。お手元の名簿によりまして、新委員様をご紹介させていただきます。

まず、お一人目ですが、お手元の名簿のほうで網掛けになっているところでございます。京都北都信用金庫福知山中央支店から支店長の櫻本 徹郎様でございます。本日は、ご欠席のご連絡をいただいております。お二人目ですが、福知山地区労働者福祉協議会から代表の佐藤 健様でございます。以上、お二人の新委員様につきましては、市長より委嘱状が交付されております。時間の都合上、机上にて交付させていただいておりますので、ご確認ください。なお、本日ご欠席の連絡をいただいておりますのは、仲林 清貴様、矢作弘様、高橋 公一様、高岡 明子様、それからオブザーバーの京都府の村上 章様でございます。まだ来られていない委員様もおられますが、以上でございます。それでは、続きまして、本日お手元に配布させていただいております、資料の確認をさせていただきます。また、郵送で送付させていただいております資料もお手元にご用意ください。1 つ目でございます。本日の次第でございます。2 つ目は委員名簿でございます。3 つ目につきましては、ふくふく暮らしのススメでございます。郵送分の資料につきましては、「平成 27 年国勢調査の人口集計結果」と「総合戦略アクションプラン改定案」でございます。お手元にないものがございましたら、お申し出をいただきますようお願いいたします。

よろしいでしょうか？それでは続きまして、次第の 4 にまいります。「平成 27 年国勢調査結果の概要」と次第 5 の「主な最重要事業の現状と方向性」を事務局から説明いたします。

(事務局)

スライド1

失礼いたします。事前に郵送のほうでお配りしました「平成 27 年国勢調査の人口集計結果」、表裏のものについて、こちらのほうを前方のパワーポイントのスクリーンでお示しをしながら、若干私のほうから説明をさせていただきたいと思います。また、「27 年度調査の北部の状況」というのも、こちらのほうで若干説明をさせていただきます。

スライド2

スライドのほうを見ていただくと、おさらいとして福知山市の現状からお話します。これは福知山市人口ビジョンの人口移動のグラフでございます。2005 年から 2010 年までの期間における性別・5 歳階級別人口移動の動向になるんですが、概ね男女ともに同様の傾向を示しています。まず、0～19 歳が 5 歳～24 歳になる段階で、総じて転出超過となっております。これは特に 15～19 歳が 20～24 歳になる段階での転出が多いことから、これは進学とか就職とかを機に転出する人口が多い。この辺が特徴といわれておりますが、こういったことで高校を卒業すると、福知山市を離れるといった傾向がこれを見てとれるかと思えます。また、20～24 歳が 25 歳～29 歳になる段階、及び 25～29 歳が 30～34 歳になる段階で転入超過、今度は転入ですね。ちょっと山が出てると言うんですが、こういったところは就職を機会に転入する人口が多いというふうに考えられます。30 歳以降は微小ながら各年代で転出超過の傾向がありまして、子ども世代においても転出超過となっていることから、ファミリー層が転出しているんじゃないかというふうにこれで見えてとれます。

スライド3

次に、2013 年の純移動の状況です。おさらいになるんですが、図示しました各市町のうち、京都市、大阪市に対して大幅な転出超過となっております。また南丹市、綾部市に対しても転出超過となっているんですが、一方で舞鶴市以北の京都府内の市町及び隣接する兵庫県北部の各市に対しては、これはまた逆に転入超過というふうになっております。京都府及び兵庫県の北部・北近畿圏といわれますが、ここからの転入があるというものの、それを上回って京都市や大阪市へ転出するという状況が見て取れるかと思えます。このことから京都市や大阪市に出て行った若者を、いかに福知山につなぎとめたり、転入を促進させることが何よりも重要でないかということが、これでわかります。

スライド4

次に平成 22 年、国勢調査からの社人研推計では、2040 年には 60,414 人、また、2015 年では 76,733 人と、社人研のほうで推計されました。しかし、平成 27 年国勢調査、昨年の 10 月になるんですが、2015 年人口は 78,935 人ということで、すでに推計値を 2,000 人以上の人口減少の抑制が図られているということになっております。また、合計特殊出生率も 1.96 に現れている通り、子育てしやすいまちとか、移住してみたいまちにも各方面から評価いただいているということから、今後、本市が人口減少の抑制に取り組んだ場合、2040 年には 78,300 人になると見通しを立てております。このケースでは、社人研推計よりも 17,866 人の人口減少抑制となるんですが、長期的な見通しとして 2060 年人口をみる

と、社人研推計では 47,064 と減る見通しはあるんですが、市の人口減少抑制策によって 78,000 人程度で、人口構造が安定するというふうにこちらのほうは考えております。

スライド 5

次に、平成 27 年の国勢調査の北近畿の集計結果をまとめてみたものでございます。京都府の中では 26 市町村のうち 20 市町村で人口減となっておりまして、兵庫県では 41 市町中、神戸市を含む 31 市町で人口減となりました。都市部から離れた北近畿地域におきましては、その影響は一層大きいものとなっておりますが、舞鶴の 4,679 人減、京丹後市の 3,984 人減など、北近畿地域全体で 3 万人もの大きな人口減、率にして約 5% の減となっております。舞鶴市の 4,679 人という減については、現在の大江地域の人口が約 4,400 人であることを考えると、これはまちがひとつなくなっただぐらいのインパクトがあるのではないかと思います。そんな中、福知山市では減少率が 1% 未満、これは非常に、近隣では考えられないぐらいの微減となっておりますが、これはほぼ横ばいでありまして、北近畿におけるほかの市町とは大きく異なる結果となっております。この結果は、福知山市が持つ様々な強みによるものというふうに考えております。

スライド 6

では、その強みというのは何なんだろうかと考えてみますと、3 つの指標を紹介させていただきたいと思っております。まずひとつ目が、全国 800 以上の都市の住み良さランキング。本市は、ほぼ毎年、府内ナンバーワンと評価されております。北近畿でいきますと、朝来市が常に 1 位というかたちになっておるんで、次いで 2 位という地位がずっと続いている状況ではありますが、まず住み良さは京都府ではナンバーワンというふうになっています。さらに、合計特殊出生率というのは、1.96 と、全国平均で 1.42、京都府内平均は 1.26 ということと比べて、非常に高いというふうに評価されてます。これは、全国 813 の市区においても 9 位ということ、市町村でいきますと 34 位ということになるんですが、本市の極めて大きな特色ではないかというふうに考えております。

また次に、ヒトの流れをあらわす「昼夜間人口比率」も 1.06 ということで、これは北近畿地域では 2 位となっております。1 位というのが、観光産業が盛んな宮津市というふうになってますんで、宮津市が 1 位で 1.07 となっております。このように市内外から、通勤・通学で多くのヒトが福知山にやってくる。通勤者 8,700 人、通学者 1,500 人、合わせて 1 万人以上が、毎日ここで学んで、働いているということになってます。こうした拠点性の高さを示す指標が高いことから、人口減少幅を抑えているとこちらは考えております。

スライド 7

このことから、福知山市の強みは周りの市町に支えられているともいえると思っております。京都府北部地域連携都市圏というかたちで、今、活動のほうを行っているんですが、これは京都府北部 7 市町、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町で構成されています。これにつきましては、観光、医療、教育、工業集積、公共交通について取り組み、今年度末のビジョン完成にむけて、現在そういったものを策定しているといった状況でございます。そのビジョンも、福知山市は教育分野の担当というかたちでや

っているところでございます。

スライド 8

次に、人口問題を考えていくのに、1つの自治体だけ、福知山市だけ取り出してみても、見えてこないこともたくさんあるのかなあというふうに思います。RESAS という人口分析・経済分析システムとかを使ってみても、そういったことを感じることはあるんですが、住民は市区町村とか都道府県の垣根を越えた生活というものを営んでおられるかというふうに思っております。北近畿というエリアは鳥取県と比べても規模は同じくらいになりまして、ある人の話では、一般企業については、経済活動圏を考えると、大阪と山陰の鳥取県の間位置する北近畿というのを意識している。その中でもちょうど中間地点にある福知山市、ここをめがけていろんな経済活動を展開しようしているというふうに言われているそうです。最近のドンキホーテの出店とかスターバックスコーヒーとか、福知山市にオープンしているのも、やはり北近畿エリアのマーケットを見込んでのことかなあというふうに思います。次に、人口の話は以上でございまして、また詳しくは両面の国勢調査の人口集計結果のほうを後ほどご覧いただければと思います。以上で、人口の動態の説明を終わらせていただきます。

スライド 9・スライド 10

次に、「主な最重点事業の現状と方向性」ということで、副市長の冒頭のごあいさつにもありましたように、皆様いろいろ議論いただいた中のものが、今どうなっているのか、というところを私のほうから説明させていただきます。平成 27 年 3 月 30 日からやっていただいたということなんですが、これが全部で 18 事業あります。最重点事業ということで、これだけあげさせていただいたもの。その中でも、今回、赤字で記載している事業について、かいつまんで、時間の都合もありますんで、紹介のほうさせていただきたいと思いません。

スライド 11・スライド 12

最初に「中小企業サポートセンター強化事業」でございます。こちらのほうにつきましては、左側の福知山市の資源として、長田野工業団地や地域で光る地元中小企業、また商工団体や福知山公立大学、また京都工芸繊維大学などが資源としてあるのではないかと、いうところから、これを「場の設定」といたしまして、真ん中ですね。この中でつなぎ合わせる。つなぎ合わせることによって、イノベーションの創出を図ることができれば、右の次の「付加価値や磨き」で製品化や稼ぐことなど具体的な成果につながる、というようなご議論がございました。そういった議論を経て総合戦略の最重点事業に掲げたところではあるんですが、これが今年度においては、中小企業サポートセンターの活動によりまして、「元気な会社」はひとあじ違う！という冊子を発行して、7つのプロジェクトというもの始動しました。また、新年度においては、副市長のごあいさつにもありましたように、福知山産業支援センター（仮称）ですが、そういったものを設立しまして、新たな支援に取り組むこととしておるところでございます。中小企業サポートセンターの活動、28 年度においての活動については、私が説明するよりも福田センター長や中本委員のほうからご説明

いただいたほうがいいかと思うんですけど、また後ほどそのあたりの説明をいただければと思いますのでよろしくお願い致します。

スライド 13

次に、冒頭のご挨拶にもございましたように「福知山産伝統文化ブランド化事業」ということで、これは漆や和紙・藍染の福知山市の伝統文化の振興を図ろうというものがございます。現在では、新聞報道等にもあったように3団体が集まり「福知山伝統文化を守る会」が昨年10月1日に結成されたというふうにお聞きしております。後ほど岡本委員より少しご説明をいただければと思うんですが、そういった活動が起こってきたというふうなことでございます。

スライド 14

そして、市のほうではどうだと申しますと、今年度は森の京都の一環で丹波漆の振興を目的に事業を行っております。また新年度においても後継者育成に係る支援というの、今後も予定しておりますので、どんどんそのあたりはこういう活動も本腰をいれて、28年、またステップアップして29年には、さらに飛躍するというような、市の事業としても十分取り組んで支援を行っていきたいというふうに思います。岡本委員様につきましては、また後ほど意見交換のときに、そのあたりの現状などを踏まえまして、ご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

スライド 15

次に「移住・定住促進事業」ということで、我々の地域創生において移住施策の取り組みというのは非常に重要な意味を持つと思います。単に移住者の支援を行うにとどまらず、福知山市の魅力やポテンシャルを内外に発信しまして、長期的な視点で人口減少社会の克服につなげていこうというものでございます。具体的には窓口の一元化ということで空き家バンク制度の活用などによる住宅支援、お試し住宅ですね。それや移住を促進・定着を図るための生活支援、こういったものがあげられるのかな、とご議論いただいております。

スライド 16

福知山市では、今年度におきましては、新しい部署として、ここにも書いてあります、地域振興部の移住企業立地推進課というのを平成28年4月1日に部署を立ち上げまして、窓口のほうに一元化のものを設けて事業展開を図っているところでございます。また、総務省が立ち上げました、移住者向けポータルサイトというものがございまして、「全国移住ナビ」をご紹介させていただきたいと思うんですが、ちょっと準備のほうをいたします。皆さんのお手元にこういったものをお配りしております。これも「全国移住ナビ」というポータルサイト、今から画面のほうに映そうと思うんですが、その中で「ふくふく暮らしのすすめ」ということで、人にスポットを当てて、福知山市に移住していただいた人たちをクローズアップしまして、こういった内容のところを映します。総務省のポータルサイト「移住ナビ」の説明をさせていただきます。(移住ナビ説明)

京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会において7市町の紹介動画

スライド 17

次に「福知山公立大学設置事業」です。福知山市の地域創生の目玉が大学を活用した取り組みとしています。このような構想のもと様々な整備を行い、魅力ある地域に根ざした大学とするために、平成28年4月にスタートしました。

スライド 18

今年度においては開学記念講演会を京都府北部で開催し、各界の著名人にご講演いただきました。また、公立大学の特徴である「地域協働型実践教育」では様々なテーマで活動されています。

新年度からは定員が増えますので、福知山市のまちの様子も変化を感じられるかもしれません。

スライド 19

次に「高校生元気活力プロジェクト」です。福知山市の資源として市内に高校が6校あり、今後ますます高校生など若い力に期待されるところです。議論いただいた内容についても高校生に福知山の良さを感じてもらえれば、一旦首都圏や京阪神に出ても戻ることも選択肢に入るのではないかと、などということでも未来への投資をどう行うかが、重要であるとの意見もあったと思います。

スライド 20

新年度では、今年度も実施した「次世代交流ワークショップ」や「未来の力祭典」の開催を予定しています。

スライド 21

子育て世代 安心・安全づくり事業では、今年度行った事業として、おひさまと風の子サロンの協力を得て福知山高校3年生の家庭科の授業において赤ちゃんとお母さんを派遣して触れ合う機会を作りました。(記事の紹介)

その授業のなかで企画課が「出産と子育てにかかる社会的支援」をテーマに日本における少子化や福知山市の現状等を踏まえた講義も行いました。

●ここで5分程度の動画をご覧ください。これは福知山高校の放送部が作成したものです。

スライド 22

動画の中でもいろんな要因がかんがえられたと思いますが、答えは出ていません。私も企画課に配属されて3年になりますが、当初から分析を試みましたが答えがでません。

京都府少子化要因実態調査報告書からは、このような分析が一定なされています。

スライド 23

特徴もこのようにありますが、決め手にかける印象です。

これから各自治体で少子化の取り組みを続けられると思いますが、特効薬はないと思います。地道に継続していくことができる我慢強さも必要ですし、別のアプローチから少子

化対策に結びつけることセンスも必要です。

高校のあかちゃんふれあいも直接的には少子化対策にはつながりませんが、子育てのイメージを若者の間、高校生の間につかむことや自分の生まれ育った地域で子育てすることや郷土愛の醸成についても必要であると思います。

何より、われわれが、仕事をしている自治体を安心して子育てができる住みよい町にすることが、一番の近道かもしれません。

(司会)

それでは次第の4と5の説明をさせていただきました。最後に意見交換の時間をとっておりますが、今の説明でなにかご不明な点がございましたらお聞きしますが、なにかございますでしょうか？

特にないようですので、続きまして次第6の「アクションプラン改定案の説明」に移らせていただきます。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

失礼します。まず、郵送でお送りいたしました、総合戦略アクションプラン改定案の説明ということになりますので、こちらのほうをお手元にご用意ください。

こちらのほうでは総合戦略のアクションプランだけを抜粋しまして、これまでの取り組み、これから予定される事業のほうを抜き出しております。ちょっと、見えにくいかも知れませんが、まず1ページ目をめくっていただきますと、基本目標Iのアクションプランということで、基本目標1、福知山市にしごとをつくり、安心して働けるようにする。上から29年推進交付金予定事業、28年推進交付金で実施、28年加速化交付金で実施、先行型交付金で実地ということで、交付金の種類がいろいろあるんですけど、いわゆる地方創生の、国からおりてきた交付金でいろんな事業を展開していこうというようなつくりになっております。

まず、2ページ目、めくっていただきますと、つくり方の説明だけさせていただきます。まずは商工業の振興ということで、「H29 推進交付金予定事業」ということで、上から2つ目、福知山市産業支援事業ということで、先ほどから出ております、産業支援センターを設置し、産官学連携事業も継続して行い、新産業、基幹産業の創出を図って、新分野進出の機会を創出して市内起業の活性化を図るというようなものでございます。こちらのほうは29年度はこういう内容のものを進めていこうとしておりますし、また、28年推進交付金で実施ということで、商店街振興とか起業おうえん事業ということがあるんですけども、これにつきましてはまた夏くらいに皆さんにお集まりいただきまして、事業のこの内容はどうやったんか、というような振り返りを、またご意見を、今年度同様、新年度においても28年度の推進交付金のそういった内容をまた見ていただきたいなあと考えておりますので、これもまたKPIなんかも出てはいるんですけど、そういった指標も含め、結果はどう

であったかとか、今後の方針なんかもお示ししていこうと思います。

29年度の主な事業のところを説明しますと、5ページ一番下になるんですが、観光地域づくりセンター（仮称）設置運営事業ということで、福知山市の戦略的かつ総合的な観光施策を推進するためのプラットフォーム機能として組織する「観光地域づくりセンター」の設置及び運営を行うということというのが、新年度予算のほうでもあらわしてまして、こういった交付金の活用も行っていこうということでございます。ずっとページのほう飛びまして、つづいて15ページ、基本目標Ⅱのアクションプラン、福知山市への新しいひとの流れをつくる、の1つ目の項目でございます、福知山公立大学「学びの拠点」推進事業や「知の拠点」整備構想策定事業で、やはり福知山公立大学で魅力的な大学にするために、29年度も引き続き、お金のほうを導入して整備のほうを図っていこうというようなところでございます。また、17ページの移住・定住の促進につきましても引き続き強化していこうということも掲げられていますし、また19ページの、これは新しいんですがシティプロモーションの推進ということで、福知山PR戦略総合推進事業ということで、「ふくちやまパブリック・リレーションズ」基礎・戦略設計に基づいて、基本戦略・戦術の構築、PRコンテンツの製作を行い、広聴広報活動を一元的に管理し、戦略的に組み直し、メディアなどを通じて効果的に情報を発信するというように、情報の発信がなかなか不十分じゃないかというような、皆様からのご意見をいただいたところでございますので、こういったことに力を入れて進めていこうということで考えております。25ページのところに「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略事業」、本日、岸本委員はおみえになってないんですが、福知山フロントでゲストハウスの整備というのを今現在、駅前の商店街の一角でやられています。これも新聞報道などで、皆さんご存知のことかもしれないですが、こういったこともひとつの起爆剤として福知山市にインバウンド観光とかそういったものを呼び込んでいこうといった動きというのも支援していきたいと思っております。

以上がアクションプラン改定案ということで、後ほどご意見のほうもいただきながら、「作り方どうなん」という意見をいただこうと思うんですが、本日欠席いただいております村上章委員・オブザーバー、京都府自治振興課の参事なんですが、メールのほうでアクションプランの改定案についていろいろご意見のほうをいただいておりますので、ちょっと紹介させていただきますと、本プランというのはPDCAサイクルのもとで、29年度事業検討されるべきと考えているんですけど、28年度以前、取り組んだ内容の成果および課題の関係があまり明確に示されていないんじゃないかというふうに見受けられるというご意見と、あとはそれに関連して29年度の費用が記載されていない分野があったり、反対に28年度まで取り組みがあったものの29年度には事業がない分野がある個所が見受けられると、そういったものがあるので、一概的に委員さんとか市民の皆さんにわかりやすいようなかたちで構成したほうが良いんじゃないかということですね。あとは、各委員さんにPDCAの流れが、サイクルがわかるように、そういったことも検討してはどうかというご意見をいただいておりますし、KPIにつきましても、目標値と実績が大幅に異なっている場合については、見直しも検討していただいたらどうかというようなこともご意見としていただい

いて、後ほど意見交換のときに、皆さんの率直なご意見をいただきたいと思います。説明は以上です。

(司会)

それでは続いて次第7の「福知山市の地域創生に関する意見交換」のほうに移らせていただきます。

先ほどまでの説明で何かわからない点等ありましたら、ここで聞いていただいても結構ですので、意見交換につきましては本日説明した内容に関する事、また新しい提案など、各委員様の知見を活かした自由なご発言をいただきたいと思います。それでは芦田委員様のほうから順番に意見のほうをいただけますでしょうか。

(芦田委員)

福知山観光協会の副会長をしております、芦田と申します。よろしく申し上げます。昨年度からこういう会議に参加させていただきまして、内容はその日からずっと見させていただいておまして、非常によくまとまっているのではないかなと思いますし、必要なことがきちっと整理されているのではないかなと思います。個別のことに関しては、またいろいろとご意見が出てきたり、こうしたほうがいいんじゃないかという方法論などもあると思うんですけども、概ね、全体としてはこういう形でいいんじゃないかなと思います。ただ、市民の方に率直にわかりやすく理解していただくということにおいては、少しボリュームもありますので、そのあたりの市民向けのわかりやすい内容のものも必要になってくるのかな、というように思いました。

(司会)

ありがとうございました。高橋先生、よろしく申し上げます。

(高橋委員)

それでは、失礼します。私のほうは、全体的な人口の流れというか、流動的なことから思索してみたいと思うんですが、京都府北部のほうでも、福知山のほうでもそうなんですが、旧市街地においては一定人口が安定しておりますけど、三和・夜久野・大江のあたりは人口が減っているという状況があります。京都府北部においても同じようなことが全体に言えるということは、昔、先輩方が第1次産業の農業、それから農林業やら水産業、そうしたものにかなり力を入れてこられたという時代が、これからの農業というのは大変厳しいところがあったり、水産業もそうなんですが、なかなか跡をついで継承していくというのが時代的に大変難しい時代になったのかなあということも、この人口の推移を見ても判断できるんじゃないかな、と。福知山市の市街地は、かなり安定しているのは昭和49年に長田野工業団地が立ち上がって、それから自衛隊なり国鉄のそうしたものがあったり、

いろいろなものの働く受け皿がきちっとできているというのが一つのスタンスで、それと合わせまして福知山市がしっかりと都市計画をして、そして若者が住める土台作りをしてきたというのが一つの成果ではないかなと思います。そして若者が少しでも住めるという環境が、これらの経過から進められてきたものが、ある程度成果として出てきたんじゃないかなと思います。私の希望なんですが、私は農業の関係から代表で来させてもらっている関係もあるのでそちらの話をしますけれど、やはりこれからはある程度支援をしていただけるような農業施策というのかそういうものを実施し、田舎で定住しようと思えば、そういう若い人が農業にある程度魅力があって住めるという環境づくり、それから空き家もそうですし、田舎の空き家を使った定住戦略をしようと思えば、ある程度、生活費を送らないとなかなかそういうものに結びつきませんので、そういうものもいろいろ考えていただいて、一つ戦略の公金に見合うようなものがあれば、ぜひとも支援を頂戴したいなど。全体的には、私は、これはしっかりとした実績なり、それから成果というように判断しておりますので、今後とも大いに期待するということでございます。ちょっと取り留めのない話になりましたけども、そういうところで第 1 産業の支援も賜りますように、よろしく願いしたいです。私のほうは以上です。

(司会)

ありがとうございました。次、中本委員さん、よろしくお願いします。

(中本委員)

パワーオンネットの幹事を仰せつかっております、中本です。まずはじめに、本日見させていただきました動画ですけども、移住に関する動画であったり、定住支援に関する動画、本当に私も初めて見ましたけども素晴らしい動画やなと思いました。田舎暮らしをしたいと思っている方が見られると、なんていい所なんだろう、と。北近畿や福知山に移住してみたいと思えるような動画ができてるんじゃないかな、というふうに思いました。私の所は製造業をやってます産業関係ですので、どちらかというに移住の方は田舎暮らしということなので、先ほど見させていただいた動画でも漁業であったり農業であったり、もしくは田舎ならではの産業、そういったものを目指されている方が移住されてくるのかな、と。私、製造業でいきますと、どちらかといいますと人口減らさないためには、しっかりと地域の産業を育てていって、高校生もしくは大学生、そういった方が都会に出られたとしても、しっかりと福知山に戻ってきていただけるような産業をつくっていくのが重要かなというふうに思っております。その中で、パワーオンネットという産学官連携の事業をここ数年やってきておまして、やっとなーズの掘り起こしというのができてきたものと、本日も大学の先生も来ていただいておりますけども、大学との連携というものをしっかりといくことによって、新しい産業を、もちろん起こすことも重要だと思っておりますけども、それと同じく大学で学ばれている学生さんに福知山にはこんな企業があるんだよ、ということを感じ取っていただいて福知山に残っていただく、というようなことも重要じゃない

かなと思っています。企業としましては、そういう意味では、私ども高校生のインターンシップというのを受け付けておりますし、今度も大学生のインターンシップ、そういったものをしっかりと対応させて、受け入れさせていただいて、私のところの企業だけではなくて、パワーオンネットを通じていろんな企業に福知山の良さ・福知山のPR というものをしっかりできていくようにできればな、というふうに思ってます。以上です。

(司会)

ありがとうございます。次、岡本委員さん、よろしくお願いします。

(岡本委員)

NPO 法人 丹波漆の岡本です。よろしくお願いします。あまり私は、難しいことはわかりません。聞いてまして、ちょっと熱が出てきまして風邪気味なんですけど、取り留めない話をさせていただきます。

この中で農業関係では、地域の協力隊といいますか、夜久野では 2 人の協力隊の人が来ていただいて、漆の関係では 1 人、女性なんですけど、北海道から来て頑張ってくれておりますが、その任期が 3 年ということで、3 年過ぎるとそれから後どうするんやろ？という心配がございます。で、彼女はなんとしてでも夜久野に住んでやっけていってくださるので、ありがたいな、と。それが、丹波漆では食っていけないというのが現状でございます。私も新市長が言われている「肉のまち」の関係で京地鶏の肉をつくっておりますが、そういうことと伝統文化を守っていくためには、1 本の柱の生活するものがないとなかなか生活はしていけない、と。で、さっきの映像にもありましたように、漆と藍ということで福知山の伝統文化を守る会というのを立ち上げて活動しておるんですが、なかなかコラボしていくというのが難しくって、お互いに応援しあう、応援といっても声かけしあうみたいなことなんですけど、3 つの作品が、先ほどのものもありますが、情報発信をしていくということで、今では文化庁のお金でいろんな作品展だとかイベントだとかやってきましたけども、なかなか文化庁のお金も厳しくなりました。一応福知山でも伝統文化の実行委員会があったんですが、解散はしていませんが休会するような形になりました。今年は文化庁からお金はいただかないというような活動になっておりまして、しかし情報発信するためには、作品展だとか、福知山の伝統文化を守る会の 3 つのいろんな作品を皆さんに見ていただくという情報発信をしなければいけないので、そこらのことも応援いただければなというふうに思ってます。それと、子育て支援といいますか、移住・定住といいますか、Uターン・Iターン、いろいろあるんですが、夜久野では地域の伝統文化を勉強する学年がございまして、前にもお話したかもしれませんが、小学校 4 年生がそうなんですけど、今 10 歳なんです。漆を植えて、漆がとれるようになるには 10 年かかりまして、20 歳になったらその漆を掻きに来る、と。小学 4 年生が漆を植えたり掻いたり、絵付け体験をしたりと、漆で相当頑張ってくれてます。この間も 23 日でしたか、小学校の終業・進級式がございまして、あとで小学 4 年生の部屋へ行っていろんな話をしたんで

すが、いろんな漆のことで勉強してるんですね。「質問がありますか」といったら、12人しかいないんだけど全員が質問するんですね。やはり興味があるということで、最終的に成人式の日には全員漆掻きにくるんやな、ということで、実際1月なんで漆掻きはしないんですけど、漆のもとに皆で行こうと決めてくれましたんで、そういうことも含めて地域の魅力を小さいころから植えつけていくというか、教えていくということが非常に大事な、ということで活動しております。それと、ここにもありますが「肉のまち」ということで、今の市長が言っておられまして、できれば秋口か、そのころには肉のまちとして、イベントを駅前で行うかというようなことを聞いてますんで、盛大に福知山の肉関係の、肉だけやなしにいろんな食料・食べ物のイベントができればおもしろいんじゃないかな、と。この間、新聞なんかにあります、西脇に大きな肉まつりというのがありまして、ちょっと持ってきたんですけど、こういうふうに盛大にやられたらいいんです。こういうことも局所局所でやっていただければ、福知山の肉の消費につながるんじゃないかな、というふうに感じております。すいません、以上です。

(司会)

ありがとうございました。次、中島委員さん、よろしくお願いします。

(中島委員)

失礼します。やくの農業振興団の中島と申します。よろしくお願いします。それぞれ岡本君じゃないですけども、私もしゃべり方が下手なんでも。この会議は前回にありまして、その案たるものがもう一つやなあ、ということで今回は、と思うんですけど。それと、私は仕事の関係は農業関係に属しております。中本さんもいっておられましたが、中本さんも同じ分野なんですけども、たまたま私たちの地域には福知山市さんと京都府さんの支援がきまして、過疎・高齢化になっておりますので、命の里作り事業が入っております。24年からの3年間事業がありまして、その後2年間延長して5年間、この3月31日で終わります。そういったことで、地域の関係の村づくりとかそういう関係のほうにも関与しておるんです。そうした場合に、それはさて置いておいて、このプラン全体で改正案として今日、確認をさせていただいたけども、かなり立派なことです。これには当然予算がついてきます。これを何年間でもって達成するような方向付けをされるのか、ということです。それから皆さん今、お褒めの言葉ばかりあったんですけど、ちょっとだけ嫌味をもうしますと、棚卸し事業等あります。そういう関係もあったりして、継続性の話もありましょうし、いろいろあると思います。そこで、それこそ何年間でもってそれを達成するのか、それから一番最初におっしゃったように、これをいかに市民に伝えるか、このメンバーだけでは実行できません。立派な案ができました。これを市民に伝えて、どういうふうにしていくか。絶対にやって欲しいです、これは。この中身はね、全部。やってほしいけど大変やと思います。その中の1点だけ申します。先ほど私が申しました地域の村づくり関係について。これは夜久野町の畑地域ともうします。畑地域は7つの集落、小さな

集落がありまして、7つとも限界集落です。で、さきほど言った事業を取り入れてますけれども、その中にも当然、今言いました移住定住にもその地域をあげて頑張っております。去年の後半ごろに京都府から特区を受けまして、京都府の中で夜久野の畑地域は移住事業に取り組んでいるから、移住者を特区していこうということで、家の改造ひとつするの満額出ます。180万円です。それまでは、180万円の3分の1は移住者の人がやる。けど、180万円、満額だしますから、特区ですから。そういうような方向で呼びかけて、実際に入ってくれておりました。過去形です。入ってくれておりました、と申します。と、言いますのは、去年の夏ごろから家族が7名、子どもさんが5人もおられるご家族ですが入ってこられまして、私もちょっと話をしました時に、水先案内人になっておるんですね。たまたま私らの地域の私の村なんですけど、親戚の家でもあるし、鍵を預かっておるんです。ただ市のほうから、案内しとるんでね、空き家バンク。で、おみえになって、「鍵預かってやから、鍵開けて案内してや」ということで、水先案内人だから、山はあって水はないんですけどね、水先案内人。鍵開けて案内して、一緒に食事しましょってね。そういうことをして、あともう1軒まわって、3軒ほどまわって紹介しました。気に入ったお家を決められて入った。実際に住まれたのは10月です。ところが、改造もできておりませんので、ごみもたくさんありましたんで、私のお家のほうに1ヶ月間泊まれよ、と。帰る前には家賃3万円で、ということで3万円もらいまして、電気料・ガス代・水道代、全部あとから請求金額分だけもらっておまして。そのあとむこうで、空き家のほうに、村中のものが皆で総出してきれいに掃除しまして、それで入ってもらったんです。当然、入る前には契約もしなくてはいけないし、それから手続きも含めて、いろいろあるんですけども、そういった関係で早く私のほうも市役所さんなり手続きをしてください、って言って、実際できなくて、簡単に申しますけども、この3月でできてなかった、この5ヶ月間。ただで入ったんですね、契約してませんからね。だから、突然、この3月18日に皆さん立ち寄った時に、いなくなっちゃったんですよ。まったく意味がわからない。そんな困難がありましたして、やはり事務処理が、事業立ち上げるのは立派でいいんだけど、やっぱり活動してもらわなければあかん、お互いに。私らはお家の案内だけなんですけど、そんなことがありました。それと、市の職員さんだけやなしに、どうも確認しますと、去年の7月から移住者の方と家主の方との契約を業者に委託するという報告があったらしいんですけど、業者の方も全然動いていない、ということがありますので、今となってはもぬけの殻になっちゃってるんです。家主の方もまったく家賃ゼロで、村中の者が総出で掃除をしてあげたりして、みんな善意でやっていたんですけど、どうもうまくいかなかった。悪い例を申して本当にもうしわけなかったんですけど、やっぱりそういうことも、悪いことも起きるかもわからないので、的確にせなあかん、というようなことで、村の者はみんなワーワー言うてます。入ってきた人のも悪い、関係者も悪い、というようなことで、今後私らも水先案内人としても、よっぽど心してやらないと、バカをみるということですよ。そういったことで、悪い例を申して本当に申し訳ないですけど、良いことばかり申し上げていてもしかたないので、実際の例を挙げて、申し訳ないですけど、そんなことに

対して、もちろん、これは移住定住の関係です。アクションプランの一から四まであります。相当な勢いで書いてあります。良いことは良いんですけども、実際問題、具体的にどう、いつまでするか、ということ、私らもこの会議に出席した以上は気になります。私らがなんぼ言うても住民の方は信用してくれません。やはり行政のほうから還元化するなり、なんかしてやっぱり市民に知らせて欲しい。福知山市は頑張ってるだけよいプランあげとるんだということを、絶対知らせてほしい。私ら側もその時に、会議に参加しとったんや、ということをおさい声で申します。だからぜひともやってほしい。お願いします。私らがやるんやったら、一部やりますから。だから、私たちだけやなしに、この中の1つでも2つでも、自分らもはいられへんかなと思います。実行せな。私らもその1部でも、なんとか汗かいて一緒にやりたいと思います。よろしくをお願いします。

(司会)

それでは中尾委員さん、お願いします。

(中尾委員)

福知山公立大学 中尾と申します。前回の会議で参加できなくて申し訳ございませんでした。16 ページの下に入学者数、50 人・59 人という数字がありますが、今年度はもう終わりますので、新年度に向けての入試業務も終わりました、ホームページにも出ておりますが、おかげさまで4月以降・来週から百数十名の学生が入ってくる予定です。ちょうど公立化に関して大変、今回が公立化後、初めてセンター入試を受けた学生なんかもいるので、昨年の1,669人は、私学の中での入試でしたから、ある意味、瞬間風速的な分析になったと。で、今度、センター受けた子はどのくらいいるかなと、おかげさまでなんとか、国公立百数十校の5番目となって、埼玉県以外、46都道府県から受験者があったということで、合格者はこれから、入学者は実際、何県になるのかわからないですが、本当にありがとうございました。ちょうど朝、9時すぎに、駅前で、昨日の夜、名古屋から戻ってきたもんですから、駅前見たら産業支援センター・月給100万のニュースが出て、それに対して「反対～」とされてる方がいたということをおもい出しましたが、皆様ご心配もさせましたが、なんとか頑張っていきたい。で、わたし、公立化の際もそうだったんですが、先ほどの人口動態、ここから北からは入ってきてる。そして、南に対しては出て行くということで、数字を見たときにあらためて公立化議論の際に、三丹地区の子が通えるということが、まず大きな目的なんですね。10市4町という部分でかなり議論があったと思います。先ほど、埼玉県以外46都道府県から受験者がありましたよ、と申し上げましたが、この北近畿エリアのなかで、比較的、特に旧福知山市がですね、インフラなり整っていて、住みやすさで集まってくる、という要素はあるんですが、大学に入学する基準としてどういう基準で入ってくるかということ、全国から来てもらう時に、何を言っているかという部分で言うと、北近畿の中では都会だよってうことではある意味言えないのかなっていう部分をずっと感じていました。ですので、今回入学する学生にもいろいろアンケートをとってる

んですが、今年も含めて 5 回目の田舎力甲子園というイベント、ホームページにも田舎力甲子園でバナーがついてますので、来た学生は「田舎なんだよ」という思いは持って来てるんですね。ある意味、狙い通りだったんですが、この数ヶ月、ツイッターとかで福知山公立大学を見ると、入学するっていう子がいろいろ書き込みをしてるんですね。それを見ると、「思ったより都会じゃん」とか書いてるんですね。つまり、田舎だと思わせてたから、そういう言い方ができるのかな、と思って。逆に、北近畿の中では都会だよ、とか言うと、だいたい「こんな田舎」とか、みんな文句を言い出すんですね。旧京都短期大学ですね、大学の時に、京都駅前からタクシーで何万円もかかって来た、とか言って「京都ちゃうやん」とかって、そういうことを言われるような、本当に、全国的に言ってるときには今の動画なんかいろいろありましたが、やはり実質的な経済としては、長田野工業団地とか就業人口において大きな筆頭である、と。ただ、私は今、農学なんで農業関係が続くんですけど、やはり旧 3 町はほっておくと、どんどんどんどん、たぶん。じゃあ、福知山公立大学ができて、ここらへんは不動産も学生がいっぱい入ったんじゃないか、とか、旧 3 町の人からはどう見られるのか。さらに言うと、京丹後や周辺の自治体さんからも、結局、福知山の公立大学じゃないか、と。自分らのところはどんどん人口が出ている、という部分もある。でするので、いかに、ある意味弱かった部分、田舎っていう部分を、弱いとみられている部分だと。ただそれをどう強みに出してアピールしていくかということが非常に大切かなと感じてまして。昨日、南山大学ところに、あるダークツーリズムということを研究してる方の話を聞いて、非常におもしろいなと思ったのが、いわゆる負の遺産を含めて、そういうものを訪ねていくみたいなことを研究されてる方が、有名な方ですが、いわゆる地理学者というのはすべてが地図から始まる、と。もう、立地的に近いとか遠いということだけで全て考えてるんですね。私なんかは民泊の関係でいうと、隣接・6 市ぐらいとのは、近いからお互い協力しあいましょう、という考え方でやってるんですが、その昨日の方の話では、地理的な近さではなく、自分がどういう繋がりか地図をみるか、ということなんです。その繋がりというのが、物理的な近さではない、と。つまり、コミュニティって、目と目が見える範囲、コミュニケーション、直接的なテレコミュニケーション以外は直接声が届かないとか、見える範囲がコミュニケーション。で、ただコミュニティに対して、アソシエーションという考え方は、あくまで嗜好性とか軸というか、共通項があれば地理的に繋がってなくてもどんどん繋がりあえる、その結果マインドマップみたいなかたちで、実際の地図とはぜんぜん違うように、自分の中でダークツーリズムということで位置関係があるんだ、みたいな説明をされて、要は何が言いたいかという、立地的に田舎からくる、都市からくるというのはあるんですが、それぞれの軸で全国もしくは世界をシェアにやっていけるものがあると、地理的感覚関係なく全国から来てる、と。例えば鬼の関係は全国から来られてやってますね？そういうすごく最大公約数的なものではなくなるかもしれないですけど、ある種…なものかもしれないんですが、そんなものを狙っていくと結構、みんながそれぞれいろんなものがたもので全国からよびよせると。ということがあると、田舎のほうはマイナスマイナスということが続いているんですけど、なんとか

奪回できる糸口になるのかなと。ですので、田舎力甲子園のこともそうなんですけど「田舎」って悪い言葉なんですけど、「力」をつけるだけでプラスの言葉になっちゃう。つまり「鈍感力」とか「老人力」とか、悪い言葉に「力」をつけると気楽に考えられるというふうなことがでてくるんじゃないかな。弱いと思われているところを、どう力をつけて、アソシエーションとして、まずは日本全国、もしくは世界から、どういう機軸で呼んでくることができるのかなということを、ちょっと考えました。ですので、その「観光まちづくりセンター」と海の京 DMO との関係はどうなのかな？あと森とかいろんなものは、気になりましたが、これはまたということ。ちょっと長くなりましたが以上です。

(森本委員)

私のほうから2点ほど。中島さんも言われたんですけども、わかりやすい書類ですね。PDCA がどうなってるのかということもありましたけども、同意見です。一つの方法としては、ロードマップみたいなのをつくっていただくと一番よろしいかな。4つのアクションプランがあって、それぞれの項目のマップがどういうふうになっているか。それぞれ一本一本のPDCA がどうなっているか、そこに書き込んでいただくと視覚的にもわかりやすくなるんじゃないかなと思いますので、できましたらそういうものをホームページに載せていただくと一番いいんじゃないかなと思います。2点目は副市長さんもおっしゃいましたが、知の拠点の強化ということですね。私も、30年に後期から学生がこちらにお世話になりますけども、その時に公立大との連携を強化、先ほどパワーオンネットさんもおっしゃいましたが、連携を強化していかないと帰ってこないんじゃないかなという危機感を持っています。そういった連携を今からでも始めていただくのがいいかなと思っています。例えば、学園祭とかを利用していただいて福知山をアピールしに来ていただくとか、ですね。なぜこういうことをいいますかという、次年度の学園祭のときに、左京の歯科連盟かな？歯のグループがありまして、先生方がいらっしまして、うちの大学のアメフトの学生をよく診るんだ、と。歯がガタガタなんだ、と。歯の治療とかしてるんですけど、歯の健康の教育がなってない、というので学園祭の時にブース設けさせてくれないかという要望がきてるんですね。それは、やろうと思うんですけど、そういったのに似たかたちで福知山をアピールしに来ていただけたらいいんじゃないかなというふうに思っています。それで、ビデオを見て思ったんですけど、ブランディングの一種だと思うんですね、あのビデオは。ロードマップをつくられるのと連動して、アクションプランの将来の姿・福知山の姿をビデオでうまく説明していただけたらな、と。将来、子育てはどうなってるのか、とか、高齢者とか障害者とかどういうふうな対応・支援をしているのか、とか、そういった視覚に訴えられるようなプロモーションビデオをつくっていただきたいな、というふうに思います。以上です。

(司会)

ありがとうございました。では、麓委員さん、お願いします。

(麓委員)

失礼します。京都銀行の麓でございます。改定案の総合戦略ですけども、農業・商業・工業・観光・防災等々、非常に29年度の予算をしっかりと見て、そして市長の公約された案件も入っていて、いいものだと思うので、これに基づいて進められたい。各論からいきますと、どうしても直接自分が関わってきてやってきたことが気になる、というか、注目するところで、公立大学の設立もそうでしたけども、今回120名ぐらいですか、合格されたとお聞きしました。1:2の割合で福知山以外の方が来ているということなんで、まさに親御さんのお金が入ってきて福知山の消費に繋がるし、アパートとか車もそうですね。学生のまちが徐々にできあがってると思いますんで、早く1学年200人体制を構築させていただくこと。そして設備も、工織大学も含めて最新の設備を早く整えていただいて、これからも人気のある学生のまちづくりにしていただきたいなあと思っているところです。それから福知山フロント、ホテルもできましたけども、ホテルができあがっただけでなく、これは一応これで商店街の穴が、お肉屋さんとかホテルと建ってるんですけど、これで完成ではなく、いかに外需を取り込むかということが大事になってきます。このままでいきますと、市内にも旅館・ホテルとシェアの奪い合いに終わってしまうので、泊まってきた方々がどうやってまちの商店街で買物をしてもらおうとか、そういった仕組みづくりが大事なかな、と。それから福知山産業支援機構、こちらのほう、センター長を優秀な方を雇って、仕組みづくりから見ると、銀行も含めて、そのセンターに協力していく、こういう構図が見えてますんで、ぜひこれも成功に導いていきたいな、協力したいなと思っております。観光のほうは、観光まちづくりセンター、こちらは表現を見ていると、観光地域づくりセンターの設立・運営を行います。産業支援機構のほうは、運営を委託します。こうなってるんですけども、昨日たまたま観光協会の話で、こちらの観光地域づくりセンターのほうは同じくセンター長を雇うんですけども、観光協会のほうへ委託といいますか、観光協会のほうが上になって企画しているような、そんなイメージがしたんですけども、早急に外国語の観光地域づくりセンターの方向といいますか、どういう構想でやっていくのかを決めていただきたいと思います。ぜひミシュランとか海外の雑誌に早く宣伝をしていただいて、我々海外旅行に行くときは絶対海外のガイド本を読むわけですから、そこに福知山が出して、それから国内旅行の方々についても旅行会社に福知山のネタが大分できたわけですから、早急に宣伝をガンガンしていただいて、外需を取り込む、そういうふうに思います。失礼しました。

(司会)

ありがとうございました。次、草木所長さん、お願いします。

(草木委員)

失礼します。福知山ハローワークの草木と申します。よろしく申し上げます。私は、労

働という立場で、雇用確保というところで数点お話をさせていただきたいと思います。今も政府の重要施策であります「働き方改革」の実現をハローワークのほうも一体となって頑張ってます。一つは長時間労働の抑制、それから労働者の処遇改善、女性の活躍ということで、大きくこの3つを、企業に訪問させていただいた時には、事業主さん、できたらナンバー1、ナンバー2の方に直接訴えて、よろしくというふうにお話をしております。求人なんですけども、求人倍率も福知山のほうも確実に上がっておりまして、今、公表できる数値としましては、1月の有効求人倍率が1.48倍になっております。2月の有効求人倍率は、今月の31日に公表するということになるんですけども、ここで非公開ということをお願いしたいんですけども、1.51倍まで上がってきたということで、ちょうど1年前に比べますと、0.18倍ということで、着実に、求人倍率だけを見れば上がっております。しかしながら、こちらの12ページにも載ってますように、介護関係の求職者はなかなか増えてなくて、求人倍数だけは飛びぬけて高い、と。これに合わせて警備あるいは建設関係の仕事というのはなかなか求人倍率だけ上がって、いく人がいないということで、このあたりのミスマッチは引き続いて続いています。先般ですね、介護あるいは警備・建設の、いわゆる事業主、あるいは施設業務の会社、そういうところに訪問させていただいて、もう一度、いろんな愚痴を聞いてですね、どういうふうにしてやっていこうか、ということ福知山所としては考えている次第でございます。就職面接会も結構やらせていただいております、11ページにも載っていますに商工振興課さんと一緒になってやっています。つい最近では、公立大学さんと初めて、この日曜日、3月26日に京都北部の合同企業説明会というのをやらせていただいて、今日の朝刊ですかね、京都新聞の朝刊にも大きくとりあげていただいて、地元で根ざして就職を、と、こういうふうにはメディアを通じて発信していくというのは十分効果があるというふうに思っておりますので、必ずしも広報活動はいろんなところで、両丹日日さんを含めて、地元へ発信して行って、福知山を元気づけたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

(司会)

ありがとうございました。次、佐藤さん、よろしくお願ひします。

(佐藤委員)

失礼いたします。福知山地区労働者福祉協議会で会長を仰せつかっております佐藤でございます。本日は初参加ということで、前任同様、よろしくお願ひしたいということでございます。働くものの立場から、意見・提言が求められているというふうに思ひますので、一言述べさせていただきたいと思ひます。アクションプランの目標にもあるところですけども、福知山市にしごとをつくり、安心して働けるようにする、ということでございます。まさしく私どもも共感するところでございます。人口動態、北近畿における人口動態の話もございましたけども、先ほどもハローワークの所長さんからもありましたとおり、高齢化に伴ひまして労働力人口がますます減っていく中でして、やはり労働力の奪い合い

に、地域間それから企業間でもなっていくんだろうな、と考えております。魅力的な仕事、それから柔軟な働き方ができる仕事というのが、今後ますます求めてこられることではないかなと思っております。例えば、育児しながらとか、介護しながら仕事ができるとか、在宅で仕事ができるとか、そういうようなことがどんどん各職場で取り組んで、実践できるように進めていかなければならないかなと思います。福知山におきましては、中小企業もたくさんございますので、そのあたり情報・先進的な取り組みをどんどん発信して行って、していきながら福知山の働く者にとって、魅力的なように進めていかなければ、というふうに思いますので、また行政の力をお借りしながら、仕事を定着することによって福知山に定住できるということでございますので、今後とも協力して頑張ってもらいたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。次、山本委員さん、お願いします。

(山本委員)

神戸から参りました山本でございます。私一人だけがこちらに住んでおりませんので、外部からの目というかたちでお話させていただきます。先ほど動画を見せていただきましたけども、すごい単純なことなんですけど感動したんですね。やっぱり子育てというのはすごく大事なかなと思っております。私は、子どもが3人おりました、ですから出生率は当然オーバーしておりますし、その子どもがそれぞれ2人ずつ子どもがおりました、ですから神戸市に対して私は表彰されるんじゃないかな、と思うぐらい人口に対しては、まあ安心はしております。ただ、地方創生、各地でやっておられますけど、どうしても人口ビジョンを読む時に、やはり大企業を誘致して、その工場でもって働く人を増やす。で、そこで住んでもらって、ということが多いんですけど、じつは、先ほど動画を見て確信したのは、言葉は悪いんですけど、要は外部依存だけではないしに、内部調達できるんじゃないかと思いました。ですから福知山市さんがこの施策をずっとこれからやっていかれるのであれば、おおいに胸を張って人口増加できるというかたちで世間に発信されたほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。もう1点感じたことは、さっき中尾先生のほうから田舎っていう話が出ましたけども、最近、これ昨年だったと思いますけど末ぐらいに、京都府大の学長が言われたことがあったんですね。これは、田舎と言わずに地方・ジガタ(地方)と呼ぶ。ジガタに対して都会を町方と江戸時代呼んだということで、これを今日は披露するつもりは全然ないんですね。また披露する機会があれば披露しますが。そういうとらえ方ってとてもおもしろいから。田舎という言葉は、じつは農民と言わずに百姓と呼びなさいということ、昔、言われたことがあるんですね。それはすごくいい言葉だと思っておりますので、あえてそういうことで感動したのでお話をさせていただきました。今日のお話の中で、私のメインはそういうお話じゃなしに、2つありまして、1つは地方大学の評価の問題ということで考えております。これは皆さんご存知だと思いますけども、こ

の2月5日に朝日新聞の記事で、私立大学の公立化というかたちですごく否定的な記事が載っていると、思うんですね。これは当然中尾先生なんかは一番身近にいらっしゃるのかと思いますけども、そういう新聞の記事と、それから今年の1月の10日に白水社から出ました、「消えゆく限界大学 私立大学定員割れの構造」という本が出たんですね。これ、私、3分の2くらい読みましたけど、その中で大学のあり方ということをしごくおっしゃってるわけです。私は、書かれていることが全て正しいと思っておりませんが、その中でポイントとして考えましたのは、今、大学はすごく定員割れをしている。その本の中で記事として書かれておりましたのは、「破綻しつつあった短大が、破綻に瀕する大学に移行したためである」というようなことを言われてたんですね。すいません、これは外部からの意見ということで聞いていただけたらいいと思います。まさに、福知山公立大学はそういう状況ではないかと感じております。福知山公立大学のことについては、一文も著作には載ってませんでしたが、前に京都創生大学といったんですか？成美大学の前、そのことについては書かれておりましたけども。そういうことでいきますと、大学というのはいろんな特徴を持たなくてはいけない。今、どちらかというとも大学さえつくればいいなあという風潮というのが、この20年ぐらいずっと続いているんじゃないかなと思っております。その中で1つ提案なんですけど、例えば、文科省は私立大学に対して4つ、大学を4類型化してるんですね。4類型化しまして、それもタイプ別に、1つは教育の質的転換を目指すタイプ1、2番目はタイプ2としまして地域発展と、それに寄与する大学である。3番目はタイプ3としまして、産業界・他大学との連携、これタイプ3。タイプ4としてグローバル化、ということ言われておるんですね。その中で思いますのは、福知山公立大学というのは、私はまさにタイプ3の産業界・他の大学、これは工織大学ですけども、との連携が必要ではないかなというふうに考えております。なぜ産業ということを持ち出したかといいますと、先ほど出ました中小企業サポートセンターが今年度で終わってしまって、産業支援センターになるということなんですけど、これはまた後で申し上げますけど、そういうことを学ぶものを、ぜひ公立大学の中に設けていただきたいと考えております。これはなぜかと言いますと、福知山というのは立地的にみましても、それから市の順位・ランキングから言いましても、北近畿の雄であることは確かなんです。北近畿の雄の中で、やはり産業の連携、今、7市町ですか？北部の連携をしごくされてますけど、その中で私は産業の連携、地域産業振興という部分がちょっと欠落してるんじゃないか、という感じがしております。それを学ぶための、社会人教育のための教える場、そういうものを設けていただけたらと思っております。なぜかと言いますと、関西の各地方自治体のまちづくりとかそういうものに対して従事する人、かなりいろんな情報が不足しているんですね。なぜかと言いますと、地方自治体は…後ろにもいらっしゃいますけども、異動になると全く違う部署にいつてしまう。ですから、その仕事の継続化がなかなか難しいわけですね。そういうのを内部で求めるよりも、いわゆる地域で求めていこう、ということ私どもは提唱してございまして、地域産業振興公団というのをつくったらどうだ。これは各地域で産業支援活動に携わっている地方自治体職員を対象にして、いわゆる地域経済産業政策とか地域

支援の考え方とか最新の地域活性化成功事例等を提示するとともに、その講師とか各分野に精通した関係者との議論を通じて、地域における産業振興策の確立を目指して、経済活性化戦略を導きだすことのできる知見と能力をを持つ人材を育成していく、ということかなあと考えております。ですから、そういうことがありましたので、実は関西の、そんなに多くはないんです。いくつかの地方自治体の今、担当している職員に聞きますと、「ぜひ、そういうものがあれば、上司に話をして学びたい」というお話だったんですね。実は、関東経済産業局が、もう何年も前からやっております、関東地区のそれぞれの地方自治体、これは年間12回で、毎月1回、東京の電気通信大学ですか？学んでるということなんですね。そういうものが必要でないかなと考えております。なぜ、産業かということで申し上げたいと思ったことが、福知山市の産業振興施策というのを調べたんですね。無いんです。あ、すいません、私、浅学であまり学んでないんですけど、無いんですね。じつは総合計画とか、未来創造っていう地方創生の関係で出された冊子を見ましても、総合計画の焼き直しだけしか表現されてないんです。ということは、産業振興政策が無いんです、このまちには。これ、すごくもったいないことだと思うんですね。せっかく中本さんはじめ、パワーオンネットとか、団地で皆さんが、団地だけじゃないですね、組織されてやっておられることが、本当に、施策としてはいいかもしれないけど、政策がないんで、中小企業サポートセンターが…産業支援センターですか？ 施策の羅列だと思うんですね。そういうことではなしに、政策がつくっていくべき、根幹となるべきものをしっかりとつくる必要があるのではないか。それによって、福知山に対する皆さんの目の向け方も違ってくるんじゃないかというように考えております。これは当然、地方行政といえど、お金を儲けることが大事だというように考えております。そういう点では、地方創生といえど、お金も大事なんですけど、お金を売るための仕組みづくり、こうしたらお金を生んでいるよ、こうしたらまちが発展していくよ、ということの仕組みづくりが地方創生だと私は思っております。ですからそういう点でいきますと、すごく大事なことを、これからまだ何年か残っているわけですから、この中でぜひ政策づくりをしていただきたい。それが産業支援センターができるかどうか、私はちょっと疑問なのは、今、あちこちで…静岡の富士市なんかは、調べますと、やっておられるんですけど、いわゆる何かあればそれに対応している、というかたちなんですね。もっと、鳥瞰的な立場から作業を見ているということが大事だと思っています。そういう点では人材も資源も、いろんな豊富なものがいっぱいある福知山ですね。これ、できないことはないと思いますんで、ぜひ実践していただけたらと思っております。

(司会)

ありがとうございました。吉田さん、お願いします。

(吉田委員)

吉田です。よろしく申し上げます。私は、このふくふく暮らしに書いてあるところの

雲原っていうところから今日は来ております。私は、今日のお話を聞いて一番最初に思ったのは、くさすわけではないですが、出生率が1.96ということの原因のようにして「子づくり頑張れよ」みたいに言うのはちょっとやめていただきたいというのが率直な感じでありまして、私も11月に子どもが生まれたんですけども、やっぱり生まれてみると、いかに子どもを生む女の人たちが、問いただされているというか、子どもはまだまだないし、結婚したいのもまだなのに、いろんなことを問われ続けているのがよくわかって、その状況というのはよくないと、すごく感じたんですね。市として出生率がすごいって言いたい気持ちはすごくわかるんですし、すごいと思うんですけど、それを前面にするよりは、にもありましたけど、不妊治療の人たちに対してちゃんと助成している、そっちを支えているほうがいいのか、市の姿勢としてはいいのかというふうに思いました。私は感じていたこととして、ちょっと繋がるなということが発表の中であったのは、おもしろいなと思ったのは、まわりの市町村に福知山は支えられているんだ、というお話がありました。今もありましたけど、私は、それはおもしろいなと思って、福知山市の中で供給というか、自分たちでつくっていくのではなくて、舞鶴とかいろんなところの人たちがいるからこそこの生活である、という話がたぶんあったと思うんですけど、それって結構いいことで、まわりの人に協力しながら、周りの人に協力してやっていくポテンシャルが福知山にはあるということなのかな、と思って、これは活かしたほうが強い強みだなと思ったんです。一方で、おっしゃったように、外でばかり調達していると中が育たないというのは確かにその通りだなと思っていて、内の力を育てるために、担い手を育てるために、こういう戦略とかそうですけど、中でも取り組みを進めていく必要があるのかな、というのはすごく思いました。担い手もいろいろあると思うんですけど、会社の中の担い手もありますし、地域の中の、すごく小さい婦人会の担い手とか、そういう小さいのもありますけど、私が思ったのは、住んでてここが好きだと、福知山のことを、全部大好きじゃなくてもいいですけど、すくなくとも肯定、否定してない状態になっているのが大事かなと思って、そのために小さいことでもいいので、自分は町に対して何か「やった」という経験を具体的にしていくことが大事だなというふうに思っています。その中で、シティープロモーションの推進というのが19ページにあるんですけど、それはちょっと活かせるんじゃないかなと思っております。意見交換のところでアイデアとかあったらぜひ、ということだったんで、私がこの4月からやろうとしていることをご紹介しますと「ふくていーやま」というポータルサイトを、今、作っております、ここに書いてあることそのままなんですけど、福知山市の魅力面向全国に向けて発信する、というのをやろうとしています。それはライターの方々が高校生から、福知山市に住んでいる人から住んでない人もいろいろいるんですけど、とにかく福知山の中で魅力だと感じることを記事にして、どんどん載せていっています。その中で私がやるのは、京都市と福知山市、2拠点生活しているの、そういう暮らし方もあるよ、ということと、こういう暮らし方と楽しみはこういうことだよ、というのを紹介するというのを担当しようと思ってるんですけど、それをなんでできるかといえば、それは育休の間もできるし、家にいながらでもできるということが一番大きいとされていて、

現場に行かないとできないことばかりに予算・取り組みを用意してしまうと、そこに入れない人は除外されちゃうんですね。でも、「ふくていーやま」というそれはホームページなんです。ネットさえあれば誰でも見れるし、ネット環境さえあれば誰でも投稿・記者ができるので、可能性を感じていて。なので、動画を募集してっていうのもいいんですけど、動画を作れる人だけじゃなくて記事を書ければ、っていうところから参加できる人が増えるのかなと思うので、ぜひ福知山市さんと一緒にやっていたら楽しいかなということは思っているところです。この会自体のことで一つ思ったのが、今、私しゃべってますけど、この発表の順番を決めるのが、「じゃあ、芦田さんから」っていう感じじゃなくて、言いたい人からというふうにさせていただくほうが、私は山本さんまで来るのにすごく緊張しすぎて、「どうしよう」みたいなかんじになってしまうので、言う準備の整った方からというかんじに展開していただけるといいかなと、私は思いました。そんな感じで、他の方の考えとか聞きながらのほうがまとまったということもあるので、そういうふうにしていただけるとありがたいな、と。そんな感じで、お願いします。

(司会)

ありがとうございました。

(高岡委員)

高岡です。私は子育て世代の関連で、今までお話に入ってきたので、そのあたり気になったところがありました。22 ページのひとり親世帯の…平成 27、去年の交付金で実施と書いてあるんですけど、結局 0 件、というのが書いてあったので、たぶん前の会議で考えていくとなっていたと思うんですけど、今後はどうするのかというのが。あともう一つなんですけど、仕事で習字教室やってるんですけど、去年の夏に「藍の家」さんの藍染を生徒に体験させまして、そこの「藍の家」の周辺じゃない小学生だったので、学校で学ぶ機会が無いというのでみんな初めてだったんですね。そういう小さい時から伝統文化に触れるというのは、先ほどもいろいろ言われてましたけど、すごい大事ななあと思って、それが郷土愛に繋がるし、市主体でそういうふうな教育を、伝統文化、福知山はすごい強いと思うので、広めていけたらなあと思いました。あと、せっかく公立大とか、外部の学生さんが入ってくるまちになってきているので、そういう伝統文化を学べるものがあつたりとかすると、そのまま福知山に根付いて担い手になっていってもらえる可能性もあるんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

(司会)

ありがとうございました。

(伊東副市長)

今日はいろいろと本当に貴重な意見聞かせていただきました。まさに、27 年度から一緒

に作り上げてきていただいた皆さんだからこそ、叱咤激励するご意見もありましたし、さらに進めるようなご意見もありました。我々も、走りながら考えておるところがございまして、少し今日も反省するところがございまして。やはり、ロードマップなり、強化視点をどこに持っていくんだという話も、少し我々も緒に付けたところに一生懸命なりすぎてございまして、少し中間近くなりますので、そこは皆さんのご意見を真摯に受け止めて、よりよい方向にもっていきたいというふうに思っております。それから産業政策のほうです、山本さんからいただきました。これも我々としては、すこし考えていかなければいかんというふうに思っていて、これはちょっと言い訳ではないんですけど、福知山は40年ほど前に長田野工業団地とか、かなり産業に力を入れてきたんです。それはそれで来たんですが、少しそれ以降、いつも市の中で言っているのは、例えば長田野工業団地、あって当たり前と思っていないか、と言うように、長年それが順調に活動してくると、それが無くなる、または厳しくなるということをおぼえずに、「あって当たり前」と思っていると、まさにアウトなんです。そろそろ、やはり、例えば40年たつと大きな、全体の社会サイクルが変わってきますし、建物も当然古くなってきます。じゃあ次どうするか？というのは当たり前の話です、これに対してどう産業政策をやっていくのか、という話もやっていかん、というふうに思っています。大学の話もいろいろございまして。これも、我々もなかなか、初めての経験の分もありますので、皆さんの意見も聞きながら、せっかくこうして立ち上げたものをしっかり続けていきたいと思っています。中島さんのほうから事務の処理が遅いから逃げてしまったという話もいただきました。ちょっと私もそこは十分認知してなかったんですけど、でも、常にスピードというのは、おっしゃるとおり大事なことでございまして、そのあたりも今後の参考にして、総合戦略をより実のあるものにしていきたいというふうに思いますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(委員)

最後にお願ひだけ。今回、こうして年度末に、会合を開かれて、例えば今度、平成29年度ですかね？こうした事業の取り組みについても、こんなふうにするよという話は、こうして聞かせてもらうんですが、我々は何のためにここにいるかという、やはり29年度はこんなふうにしてほしいな、という気持ちがあるんですね。だから我々農業者がここに3人ほど来てましてね、29年度、農業の関係は一つも上がってこないですね、この中に。ただ、市の予算だからおそらくあると思うんですね、たくさん農業の関係は。その中で、やはりこれはぜひとも農業者としては、戦略の中にもっとあげてほしいなあ、というものがあると思うんで、そのへんのネタもいただいて、やっぱり新しいチャレンジも、我々もこうして参加させていただく以上は、先ほどの中島さんの話じゃないですけど、やっぱり責任持ってここにいる、という人間なんで、我々が出ているのなら農業の一つくらいはせめてあげたいし、あげてほしいという気持ちもあります。ただ、市長さんがいろいろとお考えがあるさかいに、それは予算の関係でいろいろと紆余曲折すると思うんですが、ただ

そうなる、我々は市長さんに対して、こんなふうに要望したいんですがね、という場も作っていただいたりしたいなあ、というふうに思いますので、ぜひともそのへんも考えていただいて、今後の進行の持ち方も一つご配慮願いたいとこのように思います。以上です。すいませんね。よろしく申し上げます。

(伊東副市長)

せっかくこういう協議のできる場が、それぞれの分野のリーダーをされてる方々の場でもありますんで、総合戦略もそうですけど、それを離れての、いろいろとご意見をいただけるなら、またいただける場を作りたいと思いますのでよろしく申し上げます。

(司会)

よろしいでしょうか？定刻となってきましたので、閉会の前に事務連絡を事務局よりさせていただきます。

29年度につきましては、まず6月くらいに第1回目、年度末に第2回目を予定しております。29年度の第1回目につきましては28年度事業に対するご意見をいただく予定としております。それまでに現委員様に引き続き委員の就任の承諾をいただけるか、お願いすることと考えております。皆様、お忙しい中での会議の出席になりますので、ご都合が悪い方につきましては事務局にお申し出いただきますようによろしく申し上げます。

それでは、今回の会議については以上でございます。本当に長時間、熱心なご意見をいただきましてありがとうございました。